



未来を夢見て

2020/8/27 No. 31

緊急時 子供の命を守ることは・・・

8月27日（木）、いつも給食を運んでいた校内のエレベーターが突然故障しました。

幸い先生方の素早い対応と、子供たちの頑張りで大きな混乱もなく給食の時間を終えることができました。こういう非常時になるといつも思い出すのは、東日本大震災の時、石巻市立門脇小学校で校長を務めていた鈴木洋子先生のお話です。

ご存じのように、門脇小学校は震災で壊滅的な被害を受けましたが、あのような被害の中でも子供たちの命を守ることができた学校です。何が、門脇小学校の子供たちの命を救ったのか。それは、日々の授業や集会での「聞く」ということへの指導であり、廊下歩行をはじめとする集団行動の徹底した指導でした。

今日、12時45分に徳田教頭先生から、放送で後片付けの指示が出されました（この指示も明解で、動きやすい内容でした。流石です）。17分後、最後の6年4組の片付けが終了したのが13時02分。このような場合を想定した訓練をしていない中で、822名の全校児童の片付けを終えることができたことは、他ならぬ日頃の先生方の教室での指導の成果です。

実は前日、1年生の教室に給食の時間に行ってみると、先生方が牛乳パックの片付けについての指示を子供たちにしていました。1年生の教室では、その指示を真剣に聞く1年生の子供たちの姿、そして、一人一人の子供たちに優しく手を取って、丁寧に指導する先生方の姿がありました。このような指導の積み重ねがあってこそ、今日のような非常時でもしっかり聞くことができる子供、動くことができる子供に育っていることを実感し、大変誇らしく思いました。



さて、連日猛暑が続き、昨日に続き、今日も熱中症予防のために子供たちには休み時間の外遊びを我慢してもらいました。そんな中、校庭では水着に着替えて、先生方と一緒に水遊びをする子供たちの姿がありました。久しぶりに歓声が聞こえた校庭に、

（これはオンラインでは絶対経験できないなあ）と、一人、心の中で学校に子供たちが集うよさを感じていました。



感染症対策をしながら、熱中症にも配慮する日々です。

そんな中ではありますが、常に子供たちに寄り添い、子供たちを第一に考えて取り組んでいる小野小学校の教職員の皆さんには本当に頭が下がる思いです。

この暑さ、まだ続くようです。お互い健康管理には十分留意して過ごしましょう。

（文責：手代木）